

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月20日

枚方市立楠葉中学校

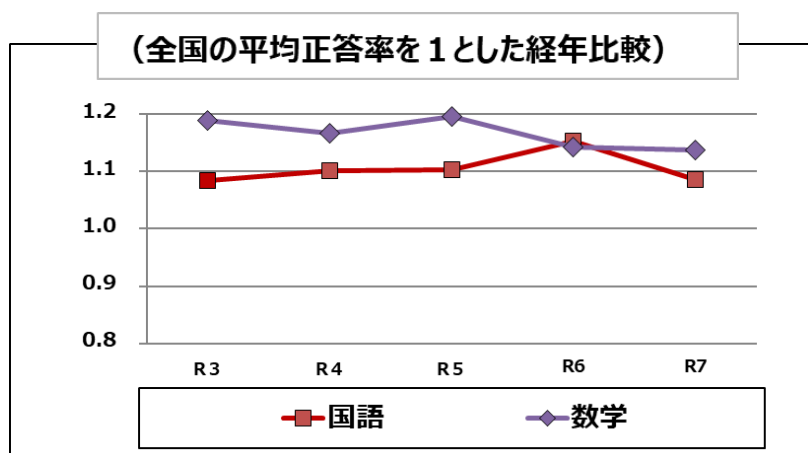
文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）の概況をお知らせします。



<学力調査結果の概要>

○国語について

→前年度に比べ、対全国比は下がっていた。しかし、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、また知識・技能、思考・判断・表現のどの分野においても全国平均を上回っていた。無解答率も全国平均より低い。

○算数【数学】について

→15問中14問で全国の正答率を上回っている。また、その中でも5問は10ポイント以上上回っており、全体的によく理解できていると感じる。しかし、唯一全国の正答率より下回っていた問題に注目すると、「素数を求める」という、とても基本的な問題であった。そのため、計算や文章問題を解く力は定着しているが、基本の理解が不十分であるように感じた。

令和7年度 全国学力・学習状況調査中学校<理科>について

中学校(理科)はCBTによる調査を実施。IRTスコアをベースに結果を示しております。

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

項目反応理論(Item Response Theory)。

異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。

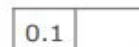
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



<参考> 素点方式(正答数・正答率)、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ(難しさ)がAさんとBさんと異なっている。

素点方式		IRT方式	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環(C)を見ることができたか	どの大きさのランドルト環(C)を安定的に見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1 	0.1 	0.1 
	0.2 	0.2 	0.2 
	0.3 	0.3 	0.3 
	0.4 	0.4 	0.4 
	Aさん 5問/7問 (正答率71%)	Bさん 4問/7問 (正答率57%)	Aさん 0.2 < Bさん 0.3

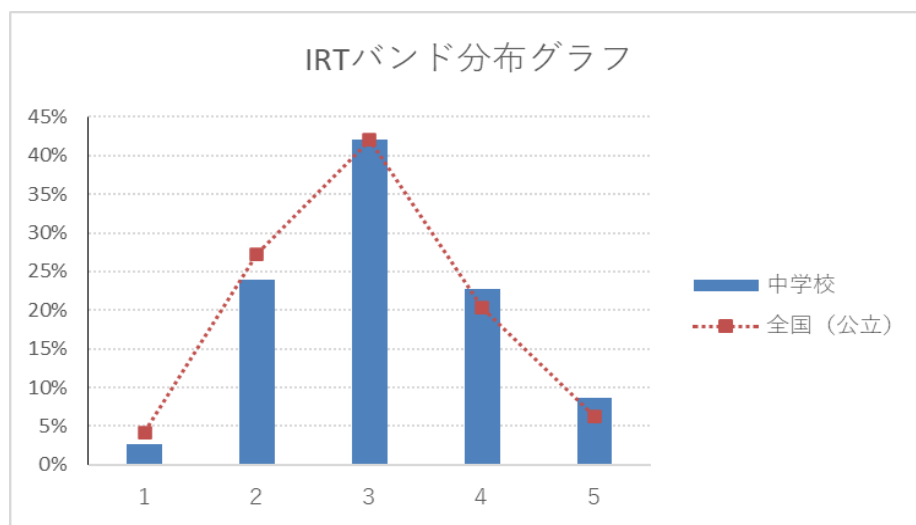
※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数(見ることができたランドルト環の数)・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア(視力)が高くなる。

悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

学力調査の結果



<学力調査結果の概要>

○理科について

→全体的には大阪府や全国の結果よりも高い点数を取ることができており、また大阪府と比べると無回答率の値もほとんどの設問において低い値となっており、日々の学習の成果が出ていると考えられる。ただ、自ら課題を設定するという問題に関しては全国平均とくらべても非常に低い正答率になっており、主体的に課題に取り組むということが本校の課題と考えられる。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要（見出し）

ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く。

【ちらし】（更新版②）

第一中学校 美術展



毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。

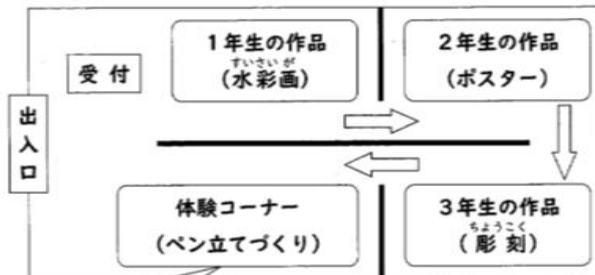
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日 時 令和7年11月15日（土） 10時～16時

場 所 第一中学校 体育館

会場図



体験できる時間（各回30分間）

①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

四 今年の美術展では、昨年の美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】（更新版②）の の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び（どちらを選んでもかまいません。）、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからUまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。

解答は必ず解答用紙に書きなさい。

考察

今回の問題で問われていることは簡単なのだが、条件が複雑で何を問われているのか捉えにくくなっている。しかし、本校の生徒はその出題の意図を捉え、答えることができている。演習問題に多く取り組み、問われ方に慣れていることがうかがえる。また普段の授業でも指導者の発問に対しても、発問の意図を考えながら情報を得ようとしている様子がみえる。

他の自分の考えを答える問題の無解答率も低く、粘り強く課題に取り組む姿勢が日々の授業で養われているように感じられる。

算数(数学)科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要(見出し)

$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する

6 結菜さんと太一さんは、3, 6や12, 15のような連続する二つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$3, 6のとき \quad 3+6=9$$

$$12, 15のとき \quad 12+15=27$$

$$30, 33のとき \quad 30+33=63$$

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(2) 連続する2つの3の倍数の和は9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n+3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n+1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n+3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n+1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「～～は、……である。」という形で答えなさい。

考察

この問題は、計算の利用の問題で、解答も記述式になっている。全国の正答率が25.7%であるのに対し、本校の正答率は38.7%と10ポイント上高く、大きな成果が見られた。しかし、その反面この問題では無回答率が20%と非常に高かった。

そのため、本校で取り組んでいる教え合い、学び合いに前向きに参加している生徒には力がついていていると感じる。しかし、基礎的な計算は解けても、問題に結び付けたり、分析活用する力はあまりついていないように感じた。

分析結果を踏まえ、今までと同様に教え合いや学び合い中心の学習をしていく。しかし、生徒が学習した内容を発信する場が足りず、無回答率が多かったと考える。そのため、これからは演習問題に取り組む、説明し合う場を作る等して、教え合いの後の発信する場を充実させていく。

理科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要（見出し）

- ①【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する。
- ②塩素の元素記号を記述する

9

理科の授業で学習した空気について、科学的に探究しました。

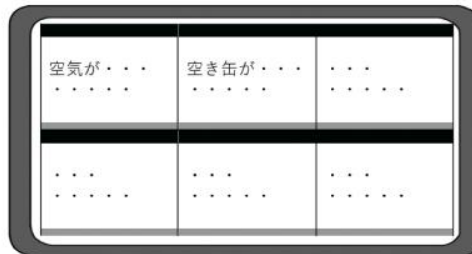
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



動画を見て、缶がつぶれた理由を予想しましょう。
予想を記述したら先生に送信しましょう。
タブレット上に、みなさんの【予想】(図)を共有します。



動画



図【予想】を共有した画面

学習した内容をもとに、振り返っています。



学習を終えて、自分の考えがどのように変化したか、Aさんに【振り返り】を発表してもらいましょう。



Aさんの【振り返り】
わたしは煙のようなものが上がったので、最初は燃焼が起こって缶がつぶれたと思いましたが、状態変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。…

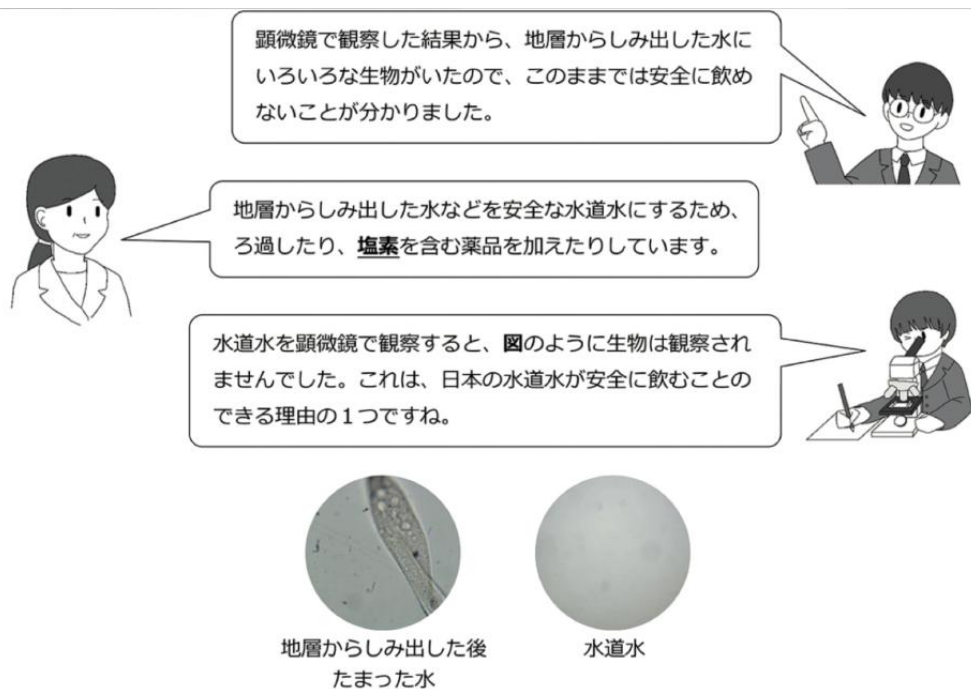
(1)

Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。

Aさんの【予想】として最も適切なものを1つ選びなさい。

Aさんの【予想】

- ☐ 煙のようなもの上がる化学変化が起こったのではないかと予想する。
- ☐ 缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。
- ☐ 温めると缶の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると考えた。
- ☐ 缶を水につけたときに、水に押されたからだろう。



図

(5)

大文字、小文字を区別して、下線部の元素記号を書きなさい。

解答欄

考察

- ①教科書には載っていないが、学習内容の定着を深めるため、教科担当が実演しながら説明した内容であったため、記憶に残っている生徒が多く、正答率の向上につながったと考えられる。
- ②元素記号は覚えておかないと、3年生で苦勞すると教科担当が繰り返し伝えたとうえで、小テストや再テストを行い、繰り返し学習内容の定着を図った結果、全国平均よりもかなり良い結果が出たと考えられる。

分析結果を踏まえ、学び合いと知識の習得を上手に組み合わせながら、生徒が興味を持てるような授業展開を今後も引き続き考えていき、自分たちで興味を持った内容について探究するような内容の取り組みも必要だと考えられる。

質問紙調査の結果

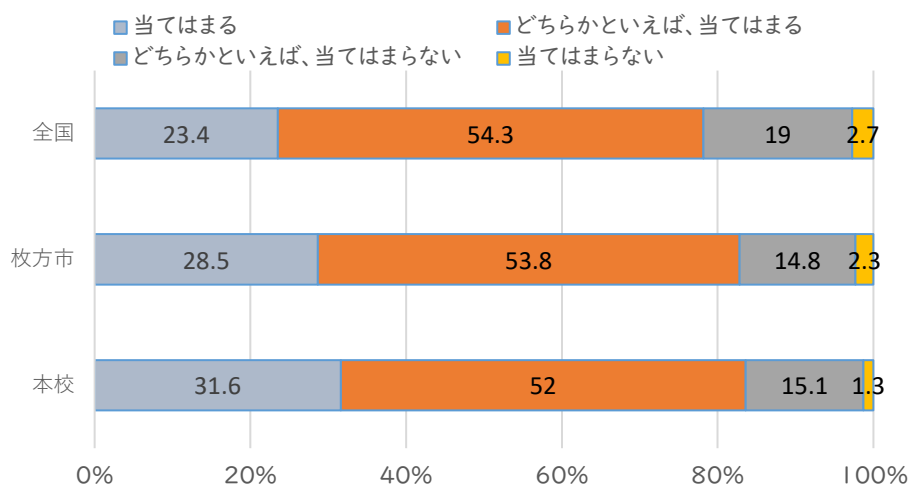
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

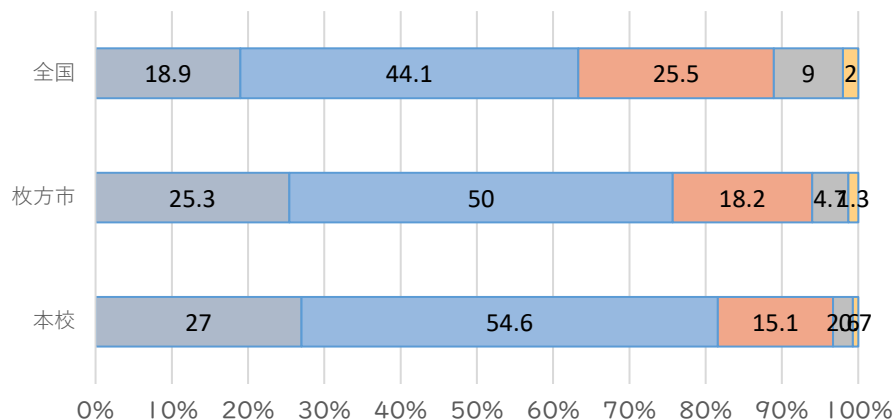
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



(考察)

本項目では、肯定が83.6%と高く、粘り強く課題に取り組むことができていると考えられる。昨年度に引き続き、「生徒の主体性を育む授業づくり」の推進のため、授業内での魅力的な課題設定について、校内で研修をおこなってきた成果だと考えられる。

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



(考察)

本項目では、肯定が80%を超え、全国や枚方市と比較しても高い値となっていることがわかる。授業内で自分の考えを発表する場を多く設けたことや、総合的な学習の時間などでも発表の工夫や資料作成の方法について学んできた成果だと考えられる。

質問紙調査の結果

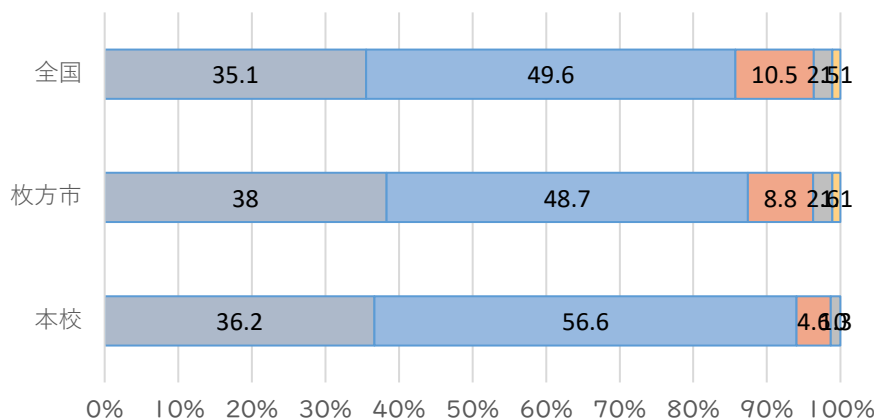
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

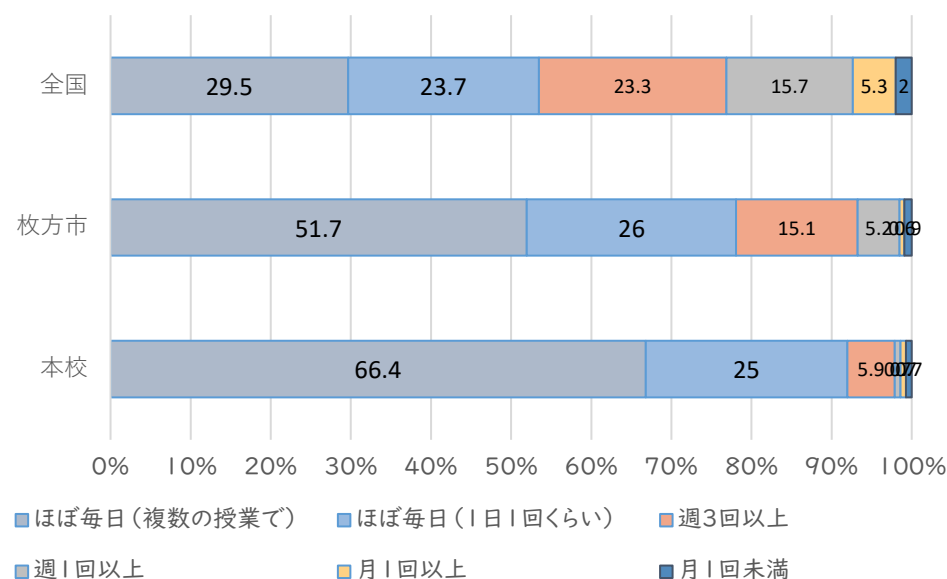
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



(考察)

本項目では、強い肯定は枚方市よりも低い値となっているが、肯定が9割を超えた。本校は昨年度より「生徒同士をつなぐ授業づくり」を研究テーマとしている。ペア活動や班活動を通して自分の考えを深め、学びあう環境づくりを進めることを目指して研修をおこなってきた成果だと考えられる。

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



(考察)

本項目では、ICT機器をほぼ毎日使用すると答えた割合が9割を超えている。多くの授業内で、日々ICT機器を使用して授業を行っており、生徒たちも使用することに慣れていることがわかる。今後も、教科を越えて授業参観を行い、積極的に情報共有をしながら、効果的なICT機器の活用を進めていきたい。

(1) 授業改善について

今後の授業改善に向けての取り組みとして、以下を重点的に取り組む。

- ・生徒が主体的に学ぶことのできる魅力的な課題設定について、研修を進める。
- ・授業の導入部分で学習のねらいを明確に伝える。
- ・自分の考えを深める場面、表現する場面を設定する。
- ・「わからない」を共有し学びあう集団作りを目指し、昨年度同様校内研究授業や相互参観授業を積極的に行う。
- ・先進校視察も積極的に参加し、校内で共有する。

(2) 家庭学習について

- ・タブレットを効果的に活用し、予習・復習をおこなうことができるよう声掛けするとともに、学習コンテンツ（AIドリル、Weblio Study等）の利用も推進していく。
- ・生徒が興味を持ったことを深く追及することができるような、主体的な課題の提示を行う。